健康についての一般知識

猛禽類の健康を維持するのは特別な知識と技術が必要とされる。他の動物同様、猛禽類も特定の栄養を摂取しなくてはいけない。人々が家で飼うようなペットとは異なり、猛禽類のエサなどは一般的なペットショップやスーパーでは入手は困難である。もともと獣医の多くは鳥類の医薬にあまり詳しくないが、猛禽類は特に、詳しい人がとても少ない。もし猛禽類の知識が豊富で熟練された獣医を他の鳥類や猛禽類の為にも見つけて下さい。

獣医に検診をしに行った時のために猛禽類の基本的な健康状態と、行動、習性をしっかりと理解しておきましょう。参考までに獣医が質問する項目です。

・普通の状態での性格とふるまい
・活発さ
・食欲
・ペリット
・排泄物
・消化機能の具合
・渇
・目や鼻からの排出物
・声質の変化
・体重
・常食や常用飲料

鳥用の応急処置キットは常備しておきましょう。薬の取扱説明書、鳥類の病気の説明書、そしてかかりつけの獣医のリストもキットと一緒に持っておきましょう。どちらにしても、鳥類のほとんどの病気は獣医以外の者が直すことは不可能に近いとも言えます。これから説明することは、どのような症状が見受けられたら病院に行くべきかです。

状態
健康な鳥は元気があればくちばしで羽を整えたり、周りをよく見渡したり、活動的になったり、そして遊んだりもします。鳥類というのは、自らの嘴で定期的に手入れしているようであれば、それは健康である証拠です。周りの環境に興味を持つのも同じく健康である証拠です。そして、食事に興味を持ち、食事を自らとる行動も良いサインです。周りの環境に興味を持たない、自らくちばしで羽の手入れをしない鳥は健康状態が良くないと言えるでしょう。もし鳥が食べ物に向かっていかない、いる環境のまわりのものにも向かっていかないようなら、どこか異常があると判断していいでしょう。多くの鳥は人間のように横たわって眠りにつきます。羽の下に頭を突っ込んで寝るということは珍しいです。他の鳥が未知のものに対して全く興味がなくても、ずっと好奇心旺盛に動き回る鳥も中にはいます。大体の鳥は特定の動きをいつもするので、飼い主や調教師はそれに気づくでしょう。もしも鳥の元気がなかったり無気力になっていたら、なにかしら悪いところがあるサインです。目がふだんよりも大きかったらそれもどこか悪いというサインです。目の腫れと、無気力を察知したらすぐに獣医に連れて行きましょう。
食欲不振もどこか悪いということを察知できるサインです。鳥は食物を摂取するかもしれませんが、戻してしまう可能性もあります。食べ物を摂取したくても拒絶したり捨てるという行動に出ることもあるでしょう。そのような行動に出るのがもしかしたら習慣の鳥もいるかもしれません。食物摂取の拒否や、食欲不振はよく観察する必要があるでしょう。
排泄物に異臭はありますか？
もしも鳥が天井を見つめていたり、顔を後ろ向きに肩の上に乗せていたりしたらビタミンB1不足からくる脳の炎症の可能性が高いでしょう。夜空を眺めるような動きから、Stargazing Syndrome と呼ばれている。これは正しく食事を与え、猛禽類用のビタミン剤を与えることで症状をよくすることもできます。鳥の習慣は注意を払って観察しましょう。鳥にとってとても重要なことは、質のいい食事を与えること、風通しの良さ、そして質のいい水を与えることです。きちんと屋根の下で大切に飼うことで天候からのダメージも防げます。鳥の健康は、鳥が生きていくうえでとても大切なことなのです。

外傷
狩りに行って、ひっかき傷や擦り傷をつくってくるかもしれません。最悪の事態は他の野生の鳥から攻撃されることと、獲物に刺されるもしくは噛まれることです。もしもひどくけがをしてしまった場合は化膿止め軟膏のネオスポリンを塗ってあげましょう。基本的に外傷は獣医に見せましょう。自分で外傷をよくする方法としては、アモキシシリンとクラブラン酸を混ぜたものを塗ると細菌から守れます。

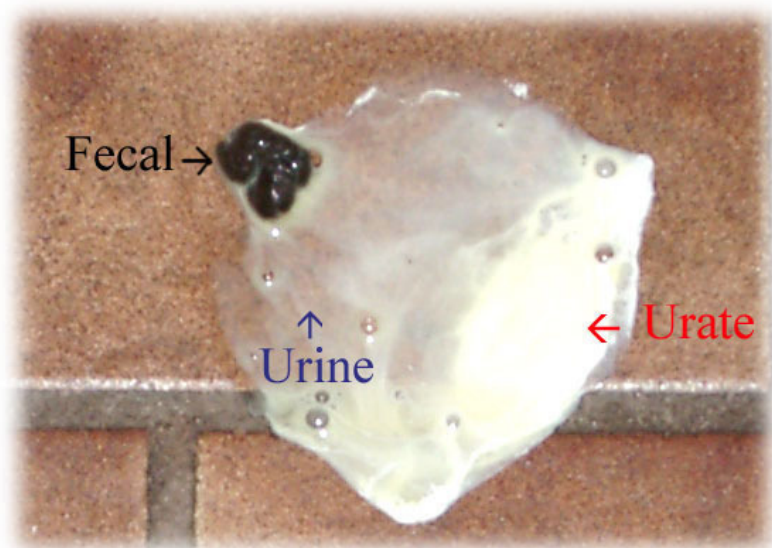
呼吸
ぎこちない呼吸、浅い呼吸、荒い呼吸、もしくは声質の変化や声量の減少はアスペルギルス症の疑いがあるかもしれません。アスペルギルス症というのは一時的な呼吸器官の感染症です。治療には主 ancoban と amphotericin B が用いられます。予防としては、鳥がいる環境の通気性を良くすることと、常に清潔に保つことです。
アスペルギルス症の二次感染として、肺炎にかかることが多いです。肺炎というのは下気道の細菌感染症であり、一般的に抗生物質が治療で使われます。
アスペルギルス症の疑いがある鳥は一緒に肺炎の検査も受けたほうがいいでしょう。
透明で水っぽい鼻水は正常です。食事の前に鼻水は出ることが多く、数滴くちばしをつたって垂れることもあります。白く濁ったねばねばしたものは珍しく、マイコプラズマ感染症の疑いがあるといえるでしょう。感染していれば目の周りが腫れ、眼窩上が隆起するでしょう。

口
平らなチーズのような斑点が口の中に現れたらそれはなにかしらの病気を患わっているか、トリコモナス症であるという証拠です。食事時にちらかすことが多い鳥は下の発達が害されているということです。これには一般的にフラジール(Flagyl)、Spartrix、ダゾール(dimetridazole)、メトロニダゾール(metronidazole)が処方されます。
喉が腫れていたら唾液腺が感染している可能性があります。喉の中を見下ろしたら膿の塊を見つけるかもしれません。獣医に行けば膿の塊を取り除き、抗生物質が処方されるので、それで治るはずでしょう。鳥によく多い感染の仕方としては、口の中をなにかで切ってしまいそこから細菌が入るパターンです。これは主に骨を食べているときに、骨が鋭すぎるときなどに起こります。
腐ったあまりものを食べさせると口臭がひどくなります。腐っているものを食べさせてしまった場合や貧弱な鳥に過剰に食事を与えてしまった場合に、抗生物質を摂取していると状態が悪化します。ピディアライトをあげると不要な食物の消化促進につながります。もしも８時間以内に変化が見られない場合は獣医に行きましょう。ペリットは正しく形がよいものであるべきです。（１日の食事量で決まってきます)

嘴
嘴の手入れはとても大切です。電動工具や専門の器具で手入れする技術を持っているならそれらを使用しましょう。嘴の手入れは大変難しくとても簡単に鳥を傷つけてしまいます。手入れそのものが鳥にとてもストレスを与えます。そして、確かな技術がない限り自ら直すことは大変難しいです。

足
どんな足のけがも扱いにくく、やっかいです。足の裏に胼胝ができてしまったら、しりゅう症になってしまうでしょう。胼胝は腫れ上がり、熱を持ちだし、そして赤くなります。鷹は痛みを和らげる為に寝転がったり、片足で立つなどの行動を見せるでしょう。良い環境と良い食事が最善の予防策です。しりゅう症になってしまったら抗生物質を摂取することにより胼胝もなくなるので処方しましょう。
適切な環境作りはまだ協議中です。最適な人工芝など、多少は推奨のものもありますが、最適な環境というのは定義がまだ定まっていません。ある獣医の話を聞いたところ、しりゅう症を患わった鳥がいる環境に“ウェルカムマット”があったということが判明した。その他、人工芝へのアレルギー反応がしりゅう症のひとつの原因となる可能性もあります。鳥のとまり木は、天然素材のものが高く推奨されています。麻のロープが巻かれているもの、サイザル麻、ココアマット、樹皮、そしてコルクはすべて天然素材で鳥にとても優しい素材です。この天然素材に化学物質が添加されている場合もあるのでよく注意しましょう。例えば、ホルムアルデヒドは良くないです。とまり木から鳥の足の状態を確認することもできます。鳥を凍った、もしくは固いとまり木に立たせてしまうと足の皮膚を損傷してしまいます。
とがったものを鳥の周りからすべてどかしておくことにより損傷から防ぐことができます。
足を水に浸す、柔らかい歯ブラシと抗菌石鹸で洗うことは鳥の足を清潔で綺麗に保つことができるのでとてもいいです。爪の下の肉との境目のあたりは特に注意を払いましょう。血と皮膚が細菌を集め、伝染病を患うことがたいへん多いです。そこの部分をよく綺麗にすることで予防できます。足軟膏を使って足をマッサージすることも有効です。なにもしないよりも、注意を払い泥でさえも足につけたままにしないという心構えの方がいいでしょう。軟膏は少量使うことを心がけてください。鳥は軟膏を羽でふき取ろうとします。シンプルかつ有効な軟膏はラノリンと Dermaclense を混ぜたものです。馬の蹄ケア用の軟膏、コロナも保湿と抗菌特性を持っているのでとても効きます。軟膏を１日に２回損傷している部分に塗れば時間もそんなにかからないで治るでしょう。

爪
嘴同様、電動工具や専門の器具で手入れをするのがいいですが、技術を持っている方のみになります。爪の形を整えるときは爪ヤスリを使って爪の裏側を削りましょう。繋がれていた鳥は爪がらせん状になっていることがあります。その場合も爪ヤスリを使用し、きちんとした形に伸びるように手入れをしてあげましょう。爪は液体などに浸しても形がするどく綺麗になるわけではありません。爪ヤスリを使うことが綺麗に仕上げるコツです。鳥は爪を整えるときには暴れずにおとなしくしているでしょう。その都度爪の形を写真に収めることで変化を見ることもでき、次回どのように研げばいいかもわかってくるでしょう。
特に爪と足の指の境目と、足の裏のしわをよく見てください。その部分は一番細菌が入りやすい部位です。シミや赤い線が感染している最初のサインです。古いしりゅう症を患わっている鳥は自然に近い色を持っているかもしれませんが、いぼのように固く浮き上がっているでしょう。

排泄物
排泄物はいろいろな形状があります。水っぽいものから、乾いたものまであります。大便の見た目は黄褐色からタールブラックの間のような色で、堅さはペリットぐらいのときもあればべたついているときもあります。緑っぽさが見られる場合は胆汁が排泄物に出てきたときです。特に危険なことではありませんが、鳥の体重が減ってきてしまっている証拠です。飲食物によっても排泄物の色合いや堅さが変わってきます。ウサギの肉を多く摂取していると淡い色の柔らかいものが出ます。骨、カルシウムを多く摂取しているとベージュっぽくなります。重い食事をとるとベージュか黄色い排泄物が出ます。赤い斑点はコクシジウム症の発症のサインです。それに気づいたらすぐに獣医へ行って治療をしてもらいましょう。早めの治療により完治の可能性も上がります。後からくる症状としては、排泄物が水っぽい黒いものになり、ねばねばした茶色のものになり、臭いがとてもきついです。緑もしくは黄緑っぽさがあったらFrounce の可能性があります。その場合は喉と口を診てください。水色っぽい、灰色っぽいものは鳥が充分に水分補給されているというサインでもありますし、同時に寄生虫の存在があるということも示します。もしも、なにか異常があるかどうか判断できない時は、鳥を鳥かごに入れ、数時間か一晩様子を見てみましょう。もしも大便の匂いが異常でしたら、それは寄生虫がいると思っていいでしょう。
あなたの鳥の正常な状態はどのようなものですか？
もしも獣医に行った時の為に大便を収集するのならば一つコツがあります。ワックスペーパーをとまり木のまわりに敷くか、鷹カゴの下全部に敷きましょう。（注：ワックスペーパーだけでは排泄物がすべって隙間から漏れてしまったりするかもしれないので、新聞紙やタオルなどを併用することをお勧めします）

写真は健康な鳥の排泄物で、糞(Fecal)は固まって濃い色のもので、尿(Urine)が半透明の部分。尿酸(Urate)は白い部分でこれは綺麗な状態のものである。

ペリット
ペリットは色も堅さもそれぞれですが、摂取した飲食物や健康状態によって変わる場合もあります。もしもペリットが出るべきところで出ない場合はどこか異常があるサインです。自分の鳥のペリットが出るペース、見た目、堅さ、臭いなどは把握しておきましょう。ペリットが正しく送られてこないときはなにかしらの問題があります。

これらは典型的なペリットです。左から：小さなウズラのペリット（羽がつくれます）、２つのウサギのペリット（白と暗い色のウサギから）、ネズミのペリット（3 匹）、ドブネズミのペリット（丸々1 匹）。

水入れ・ウォーターボール
いくつかの州では持っていることが規約としてありますが、多くの鳥は使うことがありません。よく、鳥のために出しておきましょうということを聞くかもしれませんがそれは必要ありません。鳥を十分に濡らし、血やよごれを落とし、鳥が自分で身づくろいできるくらいにするためには水入れでは不十分かもしれません。週に 1 回だけ夜小屋から水入れを取り除く事によって鳥が「水は常にあるものではない」と学習し、水入れがある時は十分な水浴びをするようになるのでメリハリを作るのも良いですが、水入れを戻さず水浴びが出来ないと熱中症になる可能性もあるのできちんと責任を持って管理しましょう。下の部分に小さな穴をあけることによって水が少しずつ流れる仕組みにしてもいいでしょう。そうすることで、水入れの方の水を鳥は飲まなくなり、体を十分に濡らし、そうすることにより鳥が自分で身づくろいするように促せるでしょう。

洗浄と消毒
鳥のためにすべてのものを綺麗に保つというのは大変かもしれませんがとても大切なことなのです。1 番良いものは、漂白剤と水を混ぜたもので、1 倍から 20 倍で水を足したものです。おおまかに、漂白剤 1 カップに対し約３．７リットルの水、もしくは漂白剤を５％にしましょう。なにかを浸して綺麗にしているときは最低でも 15 分は浸しておきましょう。化学物質を使っているので、念のため浸した後は十分に洗い流し、外に 1 日は干してから元の場所に戻すようにしましょう。そうすることにより、鳥の皮膚に侵食することもなく、蒸発して鳥が吸ってしまうこともなくなります。もう一つ効果的なものがプールでもよく使われている塩素のひとつ、亜鉛素酸カルシウムです。効果としては漂白剤と同じですが害が少ないというところがポイントです。1 対 30（塩素：水）が普通の掃除用の比率で、1 対 20 は特別な掃除が必要な時の比率です。
漂白剤は油汚れを落とすのには向いていません。表面を食器用洗剤でよく磨き、よく洗い流せば油汚れは大体落ちます。強力洗剤を使えば排泄物の汚れも油の汚れもすぐに取れますがよく注意してください。スプレーの霧は空気中の汚れを吸収してしまいます。強力洗剤を使うときは鳥をほかの場所に移し、完全にかごのまわりの空気が綺麗になるまでは鳥を近づけさせないでください。かごを強力洗剤で綺麗にしたときは最低でも２～3 時間は日に干してから鳥をかごに入れてください。強力洗剤のせいで病気になったりなにかに感染してしまう鳥がとても多いので十分注意をしてください。

寄生虫
羽のシラミについては二つの治療法をすれば治ります。専用のスプレーの薬を首から下に向かってかけ、それを 10 日間続ければ大体の鳥は治ります。ダニは主に猛禽類に見られます。抗生物質が効果的です。回虫やサナダムシができることもありますが大体の場合兆候がありません。そういった寄生虫につかれてしまうと無気力、羽の生え替わりの遅れ、臭い排泄物などにあらわれてきます。こうした症状が出た場合には獣医に診てもらわなければなりません。そして、1 年に 1 回、狩猟シーズン終了後、換羽が始まる前の準備期間の間に鳥の体内をリセットする為にも検診を

するのが良いでしょう。Panacur という薬品は今現在とてもおすすめされています。食べ物に混ぜて鳥にあげるのもいいですが、1 番有効的なのはチューブに入れて食べ物に落とすことです。（これは獣医にやってもらいましょう。誤って鳥の器官に入ってしまうと溺死させてしまいますし、肺に入ってしまえば肺炎を起こしてしまいます。）
キャピラリヤという寄生虫はとてもつかれやすい虫ですがレベルでいうとそんなにひどい虫ではありません。寄生虫というよりは線虫に近いでしょう。これらの類の虫は特に害はなく、治すのにたくさんのお金と時間がかかり、治る保証もありません。どちらにしても寄生虫には常に気を付けましょう。

回復

どんな病気や怪我でも一番大切なことは鳥のストレスを減少させることです。いろいろなところからストレスは生まれます。思いつくものはすべてなくしてあげて、鳥に負担をかけないようにしましょう。鳥はいつも暖かく、乾燥させた状態で保ちましょう。食事は良質なものをあげ、ビタミン補給も忘れずに、水も清潔なものをあげましょう。

この文章は下記のサイトから翻訳しました。
The Modern Apprentice
By Lydia Ash
翻訳　ジェナ・リカ・コルドバ